

カボチャの作り方

(家庭菜園向け)

POINT!

カボチャは土手カボチャと言うくらい作りやすい野菜のひとつです。始めに苗を定植する場所以外は、それこそ土手であろうが、ツルが伸びる前に短く刈ってあれば雑草の生えている所であろうが構いません。草勢があれば雑草には負けない葉ができますが、逆に放任すると他の作物の所までツルが伸びていき邪魔となりますので、ある程度の面積・ツルの誘引が必要な野菜です。

畑の準備

カボチャのツルは真っ直ぐに生育させると、おおよそ幅40cm・長さ4mほどの面積を占有します。したがってツルをどうレイアウトするかが悩み所です。広い面積が確保できない場合、通路や土手などの空いているスペースにツルを誘引し葉に光りを十分に当てましょう！1株植えるか2株にするか迷ったら、1株にしましょう!!

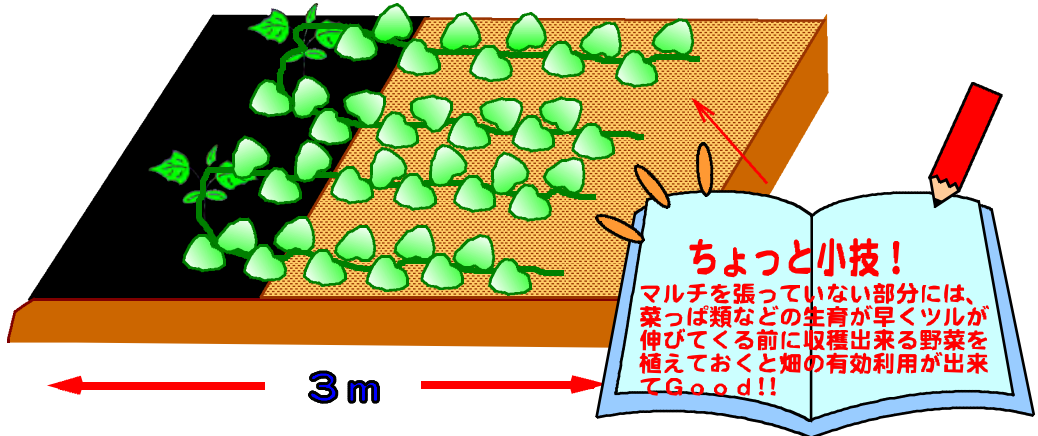
1㎡あたり完熟堆肥と腐葉土を約2kgずつ投入しすき込みます。肥料は畑により加減しますが一般的には化成肥料1㎡あたり100g(8-8-8の場合)程度、骨粉100g、pHの調整が必要な場合は苦土石灰などで酸度の調整をしておきます。

～ 省スペース畑のツルの取り回しの一例 ～



他の野菜をよけて取り回す

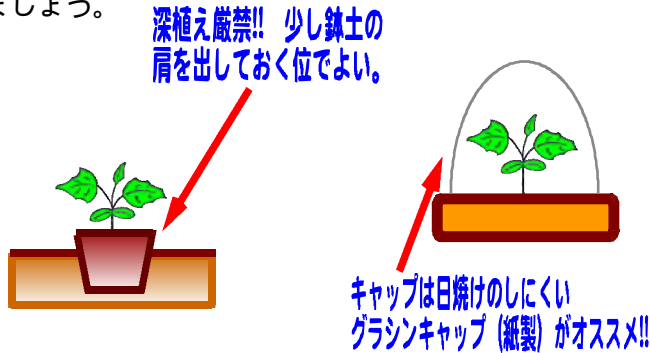
～ 畑に面積が確保できる場合の一例 ～



畝幅3m程度の畝を立てます。地温確保と防草を兼ねて1m程度の黒マルチを張り、一方方向にツルを誘引すると良いです。株間の目安は子ヅル2本整枝で約70cmが適当。

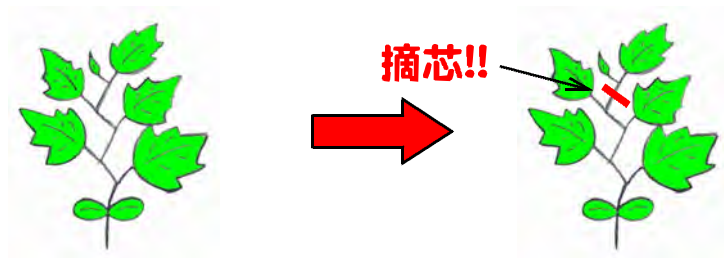
定植

深植えにならないように注意し、まだ霜の心配がある場合はキャップやトンネルなどで防ぎましょう。



摘芯

放任にすると四方八方にツルをグングン広げるため、よほど広い面積がある場合以外は1～2本整枝をオススメします。本葉4枚残してツル先を摘芯します。



整枝

摘芯して子ヅルが約50cm程度伸びてきたら、1本整枝の場合は一番元気な子ヅルを、2本整枝の場合はなるべく揃った子ヅルを2本を残し残りは除去します。同時に空いているスペースにヅルを誘引し、さらにわき芽もすべて除去します。南瓜のヅルは非常に裂けやすいので丁寧に扱います。

着果・追肥

一般的に南瓜をひとつ支えるために健全な葉が10～15枚程度は必要とされています。株元(10節以下)に着果している場合は除去しましょう。

(これがなかなかもったいなくて出来ないんです!!(T_T)でも大切。)

果実がピンポン球程度になったらヅル先辺りに軽く一握り程度の化成肥料をまきます。引き続き、わき芽も順次除去します。

収穫

収穫は開花から約45日程度(小玉系は約30日程度)で収穫となります。日数が良く解らない場合はヘタの部分写真のように茶色く割れてきたらとり頃です



Congratulations!!



さあ、次はどの南瓜にトライする?